



夏まきニンジンにおける病害虫防除対策

夏まきニンジン栽培で茎葉に発生する病害虫のうち病害では、主に9～10月にかけて黒葉枯病やうどんこ病、軟腐病などが発生します。また、害虫ではアブラムシ類、キアゲハ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウやシャクトリムシなどが発生し、生育不良や根部肥大の不良などで、大きな減収を招くことがあります。

これら病害虫の発生に十分注意し、早期の発見と適切な薬剤防除に心がけてください。

なお、薬剤防除に際しては、耐性菌や抵抗性害虫の出現を回避するため、ローテーション防除に努めましょう。

黒葉枯病

黒葉枯病は、ほぼ例年発生がみられますが、特に、晴天と曇雨天が繰り返し経過する年には発病、被害が激しくなる傾向があります。密植や軟弱徒長、肥切れ等のときに発生を助長しますので、肥培管理に注意が必要です。

うどんこ病

うどんこ病は9月～10月が乾燥の年に発生が多くなります。特に多肥栽培で茎葉が過繁茂の時、早期から発生するので多肥栽培を避け早めに間引きを行います。

軟腐病

軟腐病は、管理作業等での株の傷口や害虫の食害痕などから病原菌が侵入しますので、特に降雨が続く場合や台風の時などには防除が必要になります。

アブラムシ類

アブラムシ類は、秋季が温暖に経過したときに寄生が多くなり、新芽や芯葉に寄生すると展開葉の奇形や萎縮をおこします。また、各種のウイルスを媒介するため、発病すると商品価値が低下します。アブラムシ類の飛来源やウイルスの保毒源となる圃場周辺の雑草を適切に除去し、圃場衛生に努めます。

キアゲハなどチョウ目害虫

食害が激しいと生育や根部肥大の不良を招き、甚だしい場合は商品価値が無くなりますので、幼虫の発生や被害を認めたら早めに防除します。



表1 ニンジン主要病害の主な防除薬剤

(令和5年9月12日現在)

薬剤名	黒葉枯病	うどんこ病	軟腐病	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
Zボルドー	○			500～800倍	— / —	M1
			○	500～1,000倍		
トリフミン水和剤		○		3,000倍	収穫前日まで / 3回以内	3
ファンタジスタ顆粒水和剤	○	○		3,000倍	収穫3日前まで / 3回以内	11
アフェットフロアブル	○			2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	7
アリエッティ水和剤	○			800倍	収穫7日前まで / 3回以内	P7
スターナ水和剤			○	1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	31
ダコニール1000	○			1,000倍	収穫7日前まで / 5回以内	M5
カスミンボルドー	○		○	1,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	24とM1
シグナムWDG	○	○		2,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	7と11
ベルコートフロアブル	○	○		1,000倍	収穫14日前まで / 5回以内	M7
ロブラール水和剤	○			1,000～1,500倍	収穫14日前まで / 4回以内	2

注) 表1の分類欄にはFRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 ニンジン主要害虫の主な防除薬剤

(令和5年9月12日現在)

薬剤名	アブラムシ類	キアゲハ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類
アクセルフロアブル				○	1,000倍	収穫前日まで / 3回以内	22B
コテツフロアブル		○	○		2,000倍	収穫前日まで / 2回以内	13
フェニックス顆粒水和剤			○		2,000～4,000倍	収穫前日まで / 2回以内	28
プレオフロアブル				○	1,000倍	収穫前日まで / 2回以内	un
モスピラン顆粒水溶剤	○	○			4,000倍	収穫前日まで / 3回以内	4A
カスケード乳剤			○		4,000倍	収穫3日前まで / 2回以内	15
アグロスリン乳剤			○		2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	3A
マラソン乳剤	○	○			2,000～3,000倍	収穫14日前まで / 4回以内	1B

注) 表2の分類欄にはIRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。